

様式3

公立大学法人静岡文化芸術大学

平成30事業年度に係る業務の実績に関する評価結果

令和元年8月

静岡県公立大学法人評価委員会

第1 公立大学法人静岡文化芸術大学の平成30事業年度における業務実績評価について

静岡県公立大学法人評価委員会は、「静岡県が設立する公立大学法人に係る評価基本方針」(H19.12.5 制定)に基づき、平成30事業年度の業務の実績に関する評価を行った。

1 評価に当たっての基本的な考え方

- (1) 評価を通じて、大学の教育研究及び法人運営の進捗状況等を分かりやすく示し、県民への説明責任を果たしていくものとする。
- (2) 法人の教育研究並びに組織及び運営についての様々な工夫や特色ある取組を積極的に評価するものとする。
- (3) 次期中期目標・中期計画、法人の組織及び業務運営の見直しの検討に資するものとする。

2 評価方法

- (1) 年度評価は、「全体評価」と「項目別評価」により行った。
- (2) 「全体評価」は、(3)の項目別評価を踏まえるとともに、当該年度の重点的な取組や法人の特性等に配慮しつつ、中期目標・中期計画の全体的な進捗状況を総合的に判断した。
- (3) 「項目別評価」は、法人による自己点検・評価の結果を基に、当該年度計画に定めた項目ごと、年度計画設定の妥当性も含めて総合的に検証を行い、中期目標・中期計画の達成に向けた進捗状況を確認した上で、「大学の教育研究等の質の向上に関する目標」、「法人の経営に関する目標」、「自己点検・評価及び情報の提供に関する目標」及び「その他業務運営に関する重要目標」の4つの目標別に総合的に検証した。

第2 全体評価

1 評価結果と判断理由

(1) 評価結果

公立大学法人静岡文化芸術大学（以下「法人」という。）の平成30年度の業務実績に関しては、全体として「中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる」と評価する。

(2) 判断理由

法人は、静岡文化芸術大学が、豊かな人間性と的確な時代認識や社会認識を持ち、国際社会の様々な分野で活躍できる人材の育成と、“開かれた大学”として地域社会や国際社会の発展への貢献に取り組むよう計画を策定し、遂行している。

第2期中期目標期間の3年目である平成30年度は、昨年度に実施した当評価委員会の評価において意見した事項の改善に努めながら、教育課程の見直しや研究支援体制の充実など、第2期中期計画及び年度計画の達成に向け、教職員を挙げて取り組み、着実に成果を上げた1年となった。

法人の中期目標・中期計画の達成に向けた業務の進捗状況について、「第3項目別評価」のとおり、「大学の教育研究等の質の向上に関する目標」、「法人の経営に関する目標」、「自己点検・評価及び情報の提供に関する目標」及び「その他業務運営に関する重要目標」の全ての項目について、「中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる」と認められ、これらの状況と平成30年度の重点的な取組や法人の特性等を総合的に勘案し、(1)のとおりの評価が相当と判断した。

(3) 平成30年度の重点的な取組

ア 新教育課程設置に向けた取組について

平成31年4月の文明観光学コース及び匠領域の開設に向け、専任教員の採用やカリキュラムの策定などを行った。さらに、新教育課程に関連する公開講座の開催等により、新教育課程を周知した。(No.43、44、75)

イ 研究支援体制の充実について

科学研究費補助金獲得に向けた学内研修会の実施や内容の改善に加え、外部のコンサルタントを活用したWeb添削システムを導入した。加えて、研究内容のまとめ方等申請書作成の参考とするため、科学研究費補助金に採択された教員の申請書を閲覧できる体制を整えた。(No.70)

ウ 地域社会との連携について

地域活性化や地域経済の発展を目的に、静岡銀行と地方創生に係る相互協力及び連携に関する協定を締結した。また、人材育成、観光など多様な分野で連携を進めるため、静岡大学、静岡県立大学とともに、賀茂地域1市5町との包括連携協定を締結した。静岡銀行との協定に基づいた地域連携実践演習¹の実施や下田市と連携した産学共同国際デザインワークショップの開催等により、大学と地域とのつながりを強化した。(No.76、77)

2 評価に当たっての意見、指摘等

- ・ 文化政策研究科において、学生数が定員に満たない状態が続いていることから、より一層の定員確保努力を図る必要がある。一方、デザイン研究科においては、学生数が定員を超過しているため、定員管理を適切に行う必要がある。
- ・ 第2期中期目標期間がスタートして3年が経過し、中期計画の折り返しの年である。これまでの評価結果を踏まえ、引き続き教職員が一体となって業務を推進し、教育研究の一層の充実を図ることで、中期目標・中期計画が着実に達成されることを期待する。

(参考) 項目別評価の結果

1 大学の教育研究等の質の向上に関する目標	特筆すべき進捗状況	順調に進んでいる	おおむね順調に進んでいる	やや遅れている	重大な改善事項がある
2 法人の経営に関する目標	特筆すべき進捗状況	順調に進んでいる	おおむね順調に進んでいる	やや遅れている	重大な改善事項がある
3 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標	特筆すべき進捗状況	順調に進んでいる	おおむね順調に進んでいる	やや遅れている	重大な改善事項がある
4 その他業務運営に関する重要目標	特筆すべき進捗状況	順調に進んでいる	おおむね順調に進んでいる	やや遅れている	重大な改善事項がある

¹ 地域連携実践演習:行政、企業、学校、NPO等の現場での体験をとおり、現実社会と関わりながら地域課題への理解を深める科目。なお、令和元年度から科目名を「地域連携演習」に変更している。

第3 項目別評価

大学の教育研究等の質の向上に関する目標

1 評価結果と判断理由

(1) 評価結果

大学の教育研究等の質の向上に関する目標の進捗状況は、「中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる」と評価する。

(2) 判断理由

大学の教育研究等の質の向上に関する目標について、当評価委員会が検証した結果、年度計画記載の95項目中8項目が「計画を上回って実施している」、87項目が「計画を十分に実施している」と認められ、これらの状況等を総合的に勘案し、(1)のとおりの評価に相当すると判断した。

(3) 特に評価する項目

- ・ 大学院において、**研究生制度を活用し、留学生の受入れに積極的に対応した。**(No.6)
- ・ **障害のある受験生の入試に伴う諸課題を検討し、体制を整えるとともに、障害のある学生について、個別の支援に加え、長期履修制度²の適用により、履修期間の延長を実施した。**(No.7)
- ・ 前後期合わせて159科目延べ67人の教員がLMS³(学習管理システム)を活用した。さらに、授業アンケートにおいて、**LMS(学習管理システム)を活用したことにより、集計のための人件費を削減した。**(No.20)
- ・ 平成31年4月の**文明観光学コース及び匠領域の開設**に向け、専任教員の採用やカリキュラムの策定などを行った。さらに、新教育課程に関連する公開講座の開催等により、新教育課程を周知した。(No.43、44)
- ・ 科学研究費補助金獲得に向けた学内研修会の実施や内容の改善に加え、外部のコンサルタントを活用した**Web添削システムを導入した。**研究内容のまとめ方等申請書作成の参考とするため、科学研究費補助金に採択された教員の申請書を閲覧できる体制を整えた結果、昨年を上回る科学研究費補助金を新規に獲得した。(No.70)
- ・ 地域活性化や地域経済の発展を目的に、静岡銀行と地方創生に係る相互協力及び連携に関する協定を締結した。また、人材育成、観光など多様な分野で連携を進めるため、静岡大学、静岡県立大学とともに、賀茂地域1市5町との包括連携協定を締結した。**静岡銀行との協定に基づいた地域連携実践演習や下田市と連携した産学共同国際デザインワークショップなどを実施した。**(No.76、77)

2 長期履修制度：身体の障害等により、4年の修業年限での卒業が見込めない学生を対象として、修業年限を越えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修することができる制度。

3 LMS(ラーニング・マネジメント・システム)：学生へ講義資料や参考書の提示、講義への質問やコメント集約とそのフィードバックによる双方向授業を実現するシステム。

- ・ **独自の開拓による在シンガポール企業でのインターンシップ**について、2名の学生が参加するとともに、参加学生の報告会を開催した。(No.79、87)

2 評価に当たっての意見、指摘等

- ・ 視覚障害のある受験生への入試対応や修学支援専門員の設置等により、入試や入学後の支援体制の強化が図られている。今後とも、**障害のある学生の受入れ、支援等積極的な取組**を期待する。(No.7)
- ・ 平成30年度から正式にLMS(学習管理システム)を導入し、人件費削減の効果もあらわれているところである。今後は、**教員への利活用の普及を図り、教員利用率を向上させ、より効果的にシステムを活用していく必要がある**。(No.20)
- ・ 文明観光学コースや匠領域など地域と連携した新たな教育内容の充実が図られている。今後、**社会人の学び直しを視野に入れた取組等により、一層魅力が発揮されることを期待する**。(No.43、44)
- ・ 県内企業・団体等と連携し、県内企業の魅力を伝える取組を実施しているが、前年度に比べ、県内就職率が低下している。今後とも、学生の県内への定着を図るため、関係機関と連携して、学生に対し魅力的な県内企業を紹介することにより、**学生の県内企業への認識を深めていく必要がある**。(No.60)
- ・ 公開講座やシンポジウム等市民を対象としたイベントの参加者数が、自治体との共催事業の中止により、前年度と比べ大幅に減少しているものの、新教育課程設置に向けた公開講座の開催等新しい取組も見られる。中期計画に掲げた目標に対し、地域と連携した取組を引き続き拡充する必要がある。(No.75)
- ・ 観光分野等の教育研究について、静岡県立大学と意見交換を実施しており、計画を十分に実施したものと評価する。今後、観光教育をはじめ、静岡県立大学との交流を発展させていくことを期待する。(No.82)

[参考]小項目評価の集計結果

	評価対象 項目数	A 計画を 上回って実施	B 計画を 十分に実施	C 計画を十分には 実施していない	D 計画を 大幅に下回る
1 教育	45	3	42	0	0
2 学生支援	19	0	19	0	0
3 研究	11	1	10	0	0
4 地域貢献	11	3	8	0	0
5 国際交流	9	1	8	0	0
合 計	95	8 (8.4%)	87 (91.6%)	0	0

法人の経営に関する目標

1 評価結果と判断理由

(1) 評価結果

法人の経営に関する目標の進捗状況は、「中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる」と評価する。

(2) 判断理由

法人の経営に関する目標について、当評価委員会が検証した結果、年度計画記載の24項目中1項目が「計画を上回って実施している」、23項目が「計画を十分に実施している」と認められ、これらの状況等を総合的に勘案し、(1)のとおりの評価に相当すると判断した。

(3) 特に評価する項目

- ・ 創立20周年を迎えるに当たり、大学教職員と外部関係者による**20周年記念事業推進委員会を設置・開催**し、事業概要を決定するとともに、教職員説明会を開催し、全教職員による大学の現状と課題の共有を図った。(No.96)
- ・ 庁舎管理業務において複数年契約を行うとともに、設備管理業務において平日昼間の配置人数を調整し、経費を節減した。(No.118)

2 評価に当たっての意見、指摘等

- ・ 庁舎管理業務等の契約内容の見直しに加え、JR駅構内の広告掲示箇所数の見直しや大学案内用広報冊子の集約等により、経費の節減が図られている。(No.118)

[参考]小項目評価の集計結果

	評価対象 項目数	A 計画を 上回って実施	B 計画を 十分に実施	C 計画を十分には 実施していない	D 計画を 大幅に下回る
1 業務運営	18	0	18	0	0
2 財務内容改善	6	1	5	0	0
合計	24	1 (4.2%)	23 (95.8%)	0	0

自己点検・評価及び情報の提供に関する目標

1 評価結果と判断理由

(1) 評価結果

自己点検・評価及び情報の提供に関する目標の進捗状況は、「中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる」と評価する。

(2) 判断理由

自己点検・評価及び情報の提供に関する目標について、当評価委員会が検証した結果、年度計画記載の6項目全てが「計画を十分に実施している」と認められ、これらの状況等を総合的に勘案し、(1)のとおりの評価に相当すると判断した。

(3) 特に評価する項目

- ・ 認証評価期間及び中期計画期間の中間年に当たり、認証評価機関の大学評価基準に基づいて、自己点検・評価を実施した。(No.119)

[参考] 小項目評価の集計結果

	評価対象 項目数	A 計画を 上回って実施	B 計画を 十分に実施	C 計画を十分には 実施していない	D 計画を 大幅に下回る
1 自己点検・評価	1	0	1	0	0
2 情報公開・広報充実	5	0	5	0	0
合計	6	0	6 (100.0%)	0	0

その他業務運営に関する重要目標

1 評価結果と判断理由

(1) 評価結果

その他業務運営に関する重要目標の進捗状況は、「中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる」と評価する。

(2) 判断理由

その他業務運営に関する重要目標について、当評価委員会が検証した結果、年度計画記載の16項目全てが「計画を十分に実施している」と認められ、これらの状況等を総合的に勘案し、(1)のとおりの評価に相当すると判断した。

(3) 特に評価する項目

- ・ 省エネルギーの呼びかけや空調設備の運用改善等により、電気・ガスの使用抑制に努めるとともに、**契約期間等の調整により、電気料金を引き下げた。**(No.140)

[参考]小項目評価の集計結果

	評価対象 項目数	A 計画を 上回って実施	B 計画を 十分に実施	C 計画を十分には 実施していない	D 計画を 大幅に下回る
1 施設・設備	3	0	3	0	0
2 安全管理・防 災対策	9	0	9	0	0
3 人権尊重・社 会的責任	4	0	4	0	0
合 計	16	0	16 (100.0%)	0	0

業務実績評価集計表(平成 30 年度)

区分		評価対象 項目数	A 計画を 上回って実施	B 計画を 十分に実施	C 計画を十分には 実施していない	D 計画を 大幅に下回る
教育 研究 等	教育	45	3	42	0	0
	学生支援	19	0	19	0	0
	研究	11	1	10	0	0
	地域貢献	11	3	8	0	0
	グローバル化	9	1	8	0	0
	合 計	95	8 (8.4%)	87 (91.6%)	0	0
法人経営		24	1 (4.2%)	23 (95.8%)	0	0
自己点検		6	0	6 (100.0%)	0	0
その他		16	0	16 (100.0%)	0	0
総 合 計		141	9 (6.4%)	132 (93.6%)	0	0

業務実績評価集計表(平成 29 年度)

区分		評価対象 項目数	A 計画を 上回って実施	B 計画を 十分に実施	C 計画を十分には 実施していない	D 計画を 大幅に下回る
教育 研究 等	教育	42	5	37	0	0
	学生支援	19	2	17	0	0
	研究	11	0	11	0	0
	地域貢献	11	5	6	0	0
	グローバル化	8	2	6	0	0
	合 計	91	14 (15.4%)	77 (84.6%)	0	0
法人経営		24	0	24 (100.0%)	0	0
自己点検		6	0	6 (100.0%)	0	0
その他		16	1 (6.2%)	15 (93.8%)	0	0
総 合 計		137	15 (10.9%)	122 (89.1%)	0	0